

年間授業計画

福生 高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 地理歴史 科目 世界史演習

教科： 地理歴史 科目： 世界史演習 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 7 組

使用教科書：（ 詳説世界史【山川出版社】 ）

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	近世ヨーロッパ世界の動向① 【知識及び技能】 ヨーロッパの人々の進出がアジアにもたらした影響や変化、ルネサンスの担い手や彼らの動機について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ヨーロッパの人々が遠洋に乗り出していった動機や背景を多面的・多角的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ヨーロッパの海洋進出やルネサンス、宗教改革のついて自分が抱いた興味・関心や疑問、追究したいことを見出して学習に取り組む。	1. ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容 2. ルネサンス 3. 宗教改革	【知識・技能】 ヨーロッパの海洋進出について、その動機や背景、経緯を理解している。ルネサンスの特徴や広がり、それが後世に与えた影響を理解している。 【思考・判断・表現】 ヨーロッパ人による航海と探検を示す地図やラス＝カサス『インディアスの破壊についての簡潔な報告』などの資料をもとに、ヨーロッパの海洋進出が諸地域にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ヨーロッパの海洋進出やルネサンス、宗教改革のついて自分が抱いた興味・関心や疑問、追究したいことを見出して学習に取り組もうとしている。	○	○	○	11
	定期考査			○	○		1
	近世ヨーロッパ世界の動向② 【知識及び技能】 主権国家体制の成立の経緯や17世紀における2つのイギリスの革命について国際的な状況も踏まえて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ロシア・プロイセン・オーストリアの状況を比較したうえで、啓蒙専制主義による改革が各国に及ぼした影響を多面的・多角的に考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 主権国家体制の成立や大西洋岸諸国の覇権争い、科学革命と啓蒙思想などについて自分が抱いた興味・関心や疑問、追究したいことを見出して学習に取り組む。	1. 主権国家体制の成立 2. オランダ・イギリス・フランスの台頭 3. 北欧・東欧の動向 4. 科学革命と啓蒙思想	【知識・技能】 主権国家体制の成立の経緯や17世紀における2つのイギリスの革命について国際的な状況も踏まえて理解している。 【思考・判断・表現】 ロシア・プロイセン・オーストリアの状況を比較したうえで、啓蒙専制主義による改革が各国に及ぼした影響を多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 主権国家体制の成立や大西洋岸諸国の覇権争い、科学革命と啓蒙思想などについて自分が抱いた興味・関心や疑問、追究したいことを見出して学習に取り組もうとしている。	○	○	○	11
定期考査			○	○		1	

年間授業計画

福生 高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 地理歴史 科目 世界史演習

教科： 地理歴史 科目： 世界史演習 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 7 組

使用教科書： （ 詳説世界史【山川出版社】 ）

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
産業革命と環大西洋革命 【知識及び技能】 革命中のフランス国家体制の変遷や革命が諸外国に与えた影響、中南米諸国の独立運動に共通する点を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 イギリス産業革命が世界経済や社会に与えた影響やアメリカ合衆国の独立がヨーロッパ諸国に与えた影響を多面的・多角的に考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 イギリス産業革命やアメリカ合衆国の独立、フランス革命などについて自分が抱いた興味・関心や疑問、追究したいことを見出して学習に取り組む。	1. 産業革命 2. アメリカ合衆国の独立と発展 3. フランス革命とナポレオンの支配 4. 中南米諸国の独立	【知識・技能】 フランス革命が起こった要因やナポレオンが台頭した背景を理解している。 中南米諸国の独立がどのような経緯をたどって実現したのかを理解している。 【思考・判断・表現】 当時の工場の様子を描いた図像資料や都市の人口を示す統計をもとに、産業革命が社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。アメリカ独立宣言や「権利の章典」（第11章4節）などの資料をもとに、アメリカ合衆国独立の独自性を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 イギリス産業革命やアメリカ合衆国の独立、フランス革命などについて自分が抱いた興味・関心や疑問、追究したいことを見出して学習に取り組もうとしている。	○	○	○	13
定期考査			○	○		1
イギリスの優位と欧米国民国家の形成 【知識及び技能】 ウィーン体制成立の背景や体制崩壊の要因、その後のヨーロッパの再編の様子について各地の事情を踏まえて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 1848年革命の展開と影響について、ヨーロッパ内の地域差に着目して多面的・多角的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 19世紀後半のヨーロッパの再編成やアメリカ合衆国の発展とそれに伴う19世紀欧米の文化について自分が抱いた興味・関心や疑問、追究したいことを見出して学習に取り組む。	1. ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動 2. 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成 3. アメリカ合衆国の発展 4. 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄	【知識・技能】 19世紀の欧米情勢がどのように推移したのかを、ウィーン体制や1848年革命、様々な主義主張の特徴と合わせて理解している。 【思考・判断・表現】 ウィーン会議後のヨーロッパを示す地図や会議を風刺した図像資料などをもとに、ウィーン会議がヨーロッパ各地の人々に与えた影響を多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 19世紀後半のヨーロッパの再編成やアメリカ合衆国の発展とそれに伴う19世紀欧米の文化などについて自分が抱いた興味・関心や疑問、追究したいことを見出して学習に取り組もうとしている。	○	○	○	13
定期考査			○	○		1

